

あかちゃんに おすすめしたい絵本

— 0歳から —

せいかつ・ちしき絵本



くつついた

三浦 太郎/絵
こぐま社

丸みを帯びた、やさしい絵で描かれています。金魚、あひるなどの動物が「くつついた」ということばの繰り返し楽しい絵本です。最後にお母さんとわたしがくつつき、そしてお父さんとくつつきます。親子で絵本を読んで、スキンシップにお顔をくつつけて遊んでみてください。

くだもの

平山 和子/絵
福音館書店

写真のように鮮やかで、見開きいっぱい描かれたまるごとのくだものが出てきます。となりのページには切ったくだものがスプーンやフォークを添えて「さあどうぞ。」子どもたちが自分に差し出されたような気分になる絵本。本物かと思わせるほど丁寧に描かれています。思わず手をだして、「いただきます」本当においしいそうなくだものばかりです。「どうぞ、めしあがれ。」

赤ちゃんにおくる絵本

とだ こうしろう/作・絵
のろさかん(詩)戸田デザイン研究所

動物の名前を覚えることができるシンプルな絵本。また、物と名前が一致しないお子さんに読んであげてほしい絵本です。かわいい絵で紹介されているので、お母さんオリジナルの楽しい読み方で、覚えるスピードも速くなりそうです。

ばいばい

まつい のりこ/絵
偕成社

次々と動物ができて「こんにちは」そして「さよなら」をします。赤ちゃんがバイバイの仕草ができるようになると、絵本に手を振って楽しんでくれます。赤ちゃんが好きな繰り返し絵本です。

赤ちゃんとおそぶ絵本

おててがでたよ

林 明子/絵
福音館書店

大きなシャツから、おててがでたよ。あたまはどこかな?一生懸命、手や足を出している赤ちゃんがかわいい絵本です。



ここよここよ

神沢 利子/作 藪内 正幸/絵
福音館書店

「どこにいるの?」「ここよ ここよ」のリズムで繰り返される動物絵本。おかあさんと赤ちゃんのやさしい言葉のやり取りで、動物の赤ちゃんと一緒に見つけることができます。「どこにいるの?」の場面でちいさな赤ちゃんの体の一部がでているので、ちょっと大きなお子さんには探しながら読んであげると楽しいでしょう。



絵本になれてきたら

どんどこももんちゃん

とよた かずひこ/絵
童心社

「どんどこどんどこ」ももんちゃんが急いでいます。川にかかった橋を越え、急な斜面の山を登り、くまさんに通せんぼされても「どんどこどんどこ」。声を出して読むことで楽しさのわかる絵本です。がんばってどんどこ進むももんちゃんの目的地に思わず笑顔になります。

おかあさんだ

まつい のりこ/絵
偕成社

「えーんえーん」「おかあさんだ」の繰り返し絵本です。赤ちゃんは、お母さんとおなかの中では一体。生まれてからはおっぱいを飲ませてもらう、いつもお世話をしてもらいます。「おかあさん」という言葉は赤ちゃんにとって、とてもやさしく温もりのあるものにちがいありません。「おかあさんだ」というのは、楽しくだっこを繰り返しスキンシップができる一冊です。

かおかおどんなかお

柳原 良平/絵
こぐま社

赤ちゃんと一緒に「かおかふたつ」「はなはひとつ」とお顔をさわりながら、優しい声で語りかけてください。「たのしいかお」「かなしいかお」「わらったかお」「ないたかお」いろんな形、いろんな表情の顔がたくさんできます。赤ちゃんは正面から見た顔に興味を持ちます。

くっくくく

長谷川 摂子/作 小川 忠博/写真
福音館書店

赤ちゃんのための色のえほん

桑原 伸之/絵 あすなろ書房

もう おきるかな?

まつの まさこ/作 藪内 正幸/絵
福音館書店

にこちゃん

南 控控/絵 アリス館

おててばちばち

あまん きみこ/作 上野 紀子/絵
ポプラ社

もこもこもこ

谷川 俊太郎/作 元永 定正/絵
文研出版

「しーん」「もこ」「もこもこ にょき」オノマトペ(擬音語・擬態語)だけの不思議な音感の世界に、子どもはすぐに引き込まれます。赤ちゃんから大人まで子どもの成長とともに楽しめる絵本です。

ごぶごぶ ごぼごぼ

駒形 克己/作
福音館書店

「ぷーん ぶく ぶく ぶく ぶくん」の音とあわせて、青・赤・黄色のカラフルなマルが動き出します。リズムカルな擬似音は、水や風など身近な音でもあり、赤ちゃんの表情を見ながらいろいろな工夫を楽しめます。また、各ページに丸い穴があり指を入れて遊ぶことができ、目・耳・手で楽しめる絵本です。

まり

谷川 俊太郎/作 広瀬 弦/絵
クレヨンハウス

黄色いまりが転がったり落ちたりバットで打たれたりしながら形を変えていく、とてもシンプルなおはなしです。音がとても愉快でテンポのよい言葉と絵は、読むだけでウキウキしてきます。

この楽しさを赤ちゃんと一緒に声に出して読みたくなる一冊です。



音を楽しむ絵本

ころころころ

元永 定正/作
福音館書店

カラフルなボールが、ころころところがり、ページを開くたびにきれいな場面が広がります。

「ころころ……」の繰り返しをリズムカルに読むといっそう楽しくなります。

じゃあじゃあびりびり

まつい のりこ/絵
偕成社

身の回りにあるたくさんの音が主人公の絵本です。のりものの音や動物の鳴き声、紙が破れる音まで、テンポよく登場します。赤ちゃんがどこかで聞いたことのある音が出てくるかもしれませんね。絵もカラフルでシンプル、赤ちゃんの目でも楽しめるようになってます。



あそびうた・わらべうた絵本

いないいないばあそび

木村 裕一/絵
偕成社

赤ちゃんが大好きな、いないいないばあそび。こいぬやひよこ、絵本に出てくる動物達と、いないいないばあそびが楽しめる絵本です。絵本を読んでいると、自然と「いないいないばあそび」が出来るので、お母さんと赤ちゃんが遊ぶいいきっかけになります。



こんにちはどうぶつたち

とだ きょうこ/案 さとう あきら/写真
福音館書店

動物の絵本は数々あれど、こんなにかわいくない(!?)本はないでしょう。

こちを向いた恐い顔の動物たちの写真が次々と登場します。動物の名前なんか知らなかったていいのです。いろんな顔にむきあってみましょう。

でてこい でてこい

林 明子/作
福音館書店

「でてこいでてこい」の掛け声で、げこげことかえるが、ぴょんぴょんとうさぎがでてきます。

登場する生き物の名前を知らなくても、音、リズムで楽しめる一冊。

えんやりんごのき

松谷 みよ子/文 遠藤 てるよ/絵
偕成社

子どもたちがりんごの種をまきました。苗はすくすく育ち、やがていっぱい実をつけます。お腹いっぱいりんごを食べたら木の上でお昼寝。わらべ歌を歌うように節つきで読んであげると、みんなの気持ちが落ち着きます。夜寝る前に読んであげたい一冊です。

いないいないばあ

松谷 みよ子/文 瀬川 康男/絵
童心社

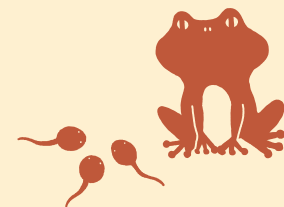
松谷みよ子あかちゃんの本シリーズの1冊です。「いないいないばあ にゃあにゃが ほらほらいらないない…ばあ」待っている間の期待感、ページをめくると「ばあ」とでてくるジッと見つめる優しい身近な動物たち。ふんわりとしたタッチで描かれて安心感を与えてくれます。

ぴょーん

まつおか たつひで/絵
ポプラ社

かえるが…ぴょーんではじまるこの絵本。次々に身近な動物がぴょーんとはねます。かえるやこねこやかたつむりが……。

最後には、わたしもぴょーんとはねるので、お子さんの名前にかえて読んでみてください。



あかちゃんとおそび絵本

がたんごとんがたんごとん

安西 水丸/絵
福音館書店

「がたんごとん」のリズムにのって、赤ちゃんの好きなものが次々と運ばれていきます。そして、最後はみんなで楽しくごはん。言葉のリズムがとても楽しい絵本です。

リズムカルな音の響きと、いっしょに身体を動かしながら、繰り返しの楽しさを味わえる絵本です。

